

松井 直樹（授業者）

倉澤 順子（授業者）

1. 基本情報

- ・日時：2017（平成 29）年 2 月 24 日（金） 第 4 校時（45 分）
- ・場所：東京学芸大学附属大泉小学校 オープンスペース
- ・学年：第 5 学年 36 名（男子 18 名，女子 18 名）（国際学級男子児童 2 名含む）

2. 単元名

「けがの防止」～君にもできる，やってみよう！つなぐ命～（保健）

3. 単元について

3.1 単元の特徴

（1）教科からみた特性

第 5 学年「けがの防止」は「交通事故によるけが」と「身の回りの生活の危険によるけが」で構成されている。また，従来の「水の事故そして学校生活の事故」も「身の回りの生活の危険」として含まれている。保健学習ではその特性として特別活動とは違い，交通事故同様に「身の回りの生活の危険」は人の行動と環境がかかわって発生すること，けがを防止するために危険に早く気づき，的確な判断の下に安全に行動することを学ぶ。また，簡単なけがの手当ができることを通してけがの簡単な手当の原理原則を理解することができる。

（2）汎用的スキルや態度・価値の育成の観点からみた特性

本単元では，「身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止」について取り組む。大人とは違い，児童の日常生活（学校生活）の視点で考えると，昨今，児童の身の回りには交通安全や犯罪被害などの危険が複雑化している。そこで，様々な事象に対して，関連する情報を広い視野をもって，客観的，論理的に評価したり，他の見方や考え方はないかと多様な視点から考えたりする学びをする。**（批判的思考力）**

また，本単元では安全な環境づくりの面から安全点検や安全施設の改善，さらには適切な規制について取り上げる。これは，大人，子ども関係なく社会全体が協力して行うべきことであることから，目標の達成を行ったりするために，他者と協力する力を身に付けることができる。簡単なけがの手当においては AED を使用した心肺蘇生法についても発展的に学習する。そのことにより，児童それぞれが自分の役割をもとに行動し「人の命を大切に扱う」意味でも協力して学ぶことができる。**（協働する力）**

簡単なけがの手当に加えた発展的な学習では，AED 使用を意図した簡単な心肺蘇生法を扱う。これは，大災害に直面した時に「自助」の意識に加えて，小学生なりに「今自分が周り（社会）のためにできることはないか」という「共助」の意識をもたせることができる。**（より良い社会への意識）**

3.2 単元の目標

（1）単元の目標

- ・資料や実習をもとに自分のめあてをもって友達と協力しながら学習し意欲的に日常生活に生かすことができるようにする。

（関心・意欲・態度）

- ・見通しをもって課題解決学習に取り組み必要な資料を選択・整理しながら課題解決の方法を考えたり，判断したりすることができるようにする。また，けがをした時には速やかに手当をする必要があ

るか判断して簡単なけがの手当ができるようにする。

(思考・判断)

- ・ 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付く、的確な判断の下に安全に行動する、環境を整えることが必要であること、けがの手当は速やかに行う必要があることを理解できるようにする。

(知識・理解)

(2) 新しい教育モデルとして重点的に育成すべき内容

①汎用的スキル

- ・ 日常生活（学校生活）に関する身の回りの危険について多様な情報を、他の見方や考え方はないかと多様な視点から考えたりする批判的思考力
- ・ 自分以外の他者と協力して、安全な環境づくりや適切な判断の下に行動し、簡単なけがの手当をする協働する力

②態度・価値

- ・ 安全な環境づくりに対して小学生なりに「今自分がまわり（社会）のためにできることはないか」という意識につながるより良い社会へ参画の意識

3.3 児童の実態

対象学級は、運動や体育授業に意欲的であり、できるようになりたいという前向きな気持ちも高く、運動ができることについて仲間とともに取り組むことができる学級である。また、保健学習においても、「心の健康」の学習（2学期）においては、課題解決学習に丁寧に取り組み、心にも健康があることや不安やストレスの個人差及びそれぞれに合った適切な対処法について学ぶことができた。さらに、ストレスマネジメントにもつながるよう自分に合ったストレス対処法を考えるとともに、友達が考える対処法を実際に体験するなど、体験的な活動も経験している。

本単元の学習内容にもつながる「けがについての意識」、「身の回りの危険なことについての考え」「けがの手当の経験」などについてどのような実態があるのか、また、学校生活で危険を予測、意識していないけがも多い実態があることから①身の回りの危険についての意識調査②保健の学習及びけがの手当についての意識及び実態調査を行った。

①身の回り（学校生活）における危険についての調査（5年きく組34名）

児童は、身近な生活で多様なけがをしている。多かったけがは擦り傷、捻挫、打撲、つき指であった。また、このけがは学校内、家庭生活で起きた事例が多く、学校では運動場、階段、家庭では、家の中、公園など身の回りの生活の危険について実体験を伴って認識していることが分かった。けがの原因については、不注意やあせりなどが半数を占めており、心の状態にかかわっていることも分かった。

②保健の学習及びけがの手当についての意識及び実態調査

Q「心肺蘇生について知っていることをすべて書きなさい。」に対して27名の児童が知らないと回答した。一部の知っている児童でも、「心臓マッサージ」「倒れている人を救う」など断片的に理解しているようである。このことから小学校5年生の段階では、まだまだ「心肺蘇生」はなじみがないことが理解できる。一方、Q「AEDについて知っていることをすべて書きなさい。」に対しては、駅やデパート、学校内でもその位置を知っている児童が多く、本校でもプールサイドに運んでいることから「人の命を救うものである」という認識があることが分かり認知度は高い。開けるとアラームが鳴る、電気ショック、電流が流れるということも知っている児童が複数いた。(図1)

また、Q「保健学習ではどのような学び方をしたいですか」については、実際にけがの手当について知りたい、生活に活かしたいという考えが多かった。また、学習形態としての考えとして様々な友達と意見を交流したいという考えも多いことが分かった。

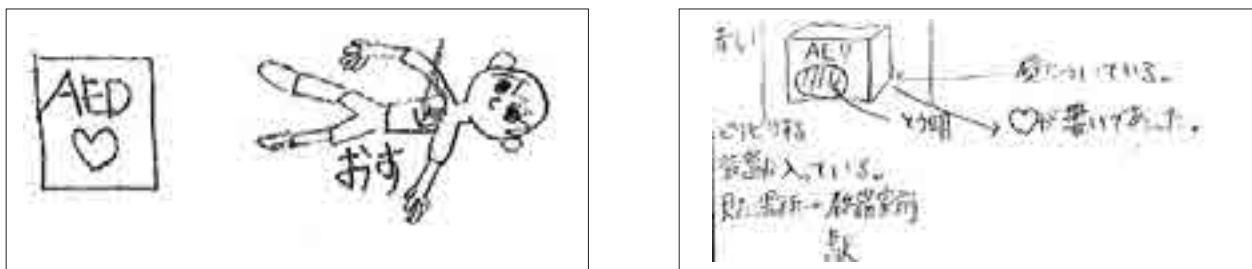


図1：AEDについて知っていることを図にしてみよう

3.4 教材観

本単元は学習指導要領体育科解説（2）「けがの防止」に基づいて学習する。その学習内容は以下の通りである。

（2）けがの防止について理解するとともに、けがなどの簡単な手当ができるようにする。

ア 交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止 には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。

イ けがの簡単な手当は、速やかに行う必要があること。

昨今、交通事故及び犯罪など児童を取り巻く危険は多様化している。そのため、ア「身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止」についてより注目していく教材づくりが重要であると考え。その際、「身の回りの生活の危険」は人の行動と環境がかかわって発生すること、危険に早く気づき、的確な判断のもとに安全に行動することを学ばせる。

イ「けがの手当」については、けがの悪化を防ぐ対処として、けがの種類や程度などの状況をできるだけ速やかに把握して処置すること、近くの大人に知らせることが大切であることを理解できるようにするとともに、自分でできる簡単なけがの手当について取り上げる。その際、傷口を清潔にする、圧迫して出血を止める、患部を冷やすなどの方法についてすり傷、鼻出血、やけどや打撲などについて実習をとおして適宜取り上げる。実習を通して確かな技能を習得することを主たる目的とするのではなく、簡単なけがの手当の実習を通して手当の原理・原則を理解させることに重点をおく。

加えて本教材では、AEDを使用することを意図した心肺蘇生の方法についても実習を通して学ばせる。AEDは現在、様々な公共の施設等で設置され、児童の目にもふれるところにあるといつてよい。また、大災害時において児童であっても「自助」だけでなく日常生活に起こる生命の危険に対してどのように的確に判断し行動すればよいかについて正しく理解させる必要があると考えて本教材を設定した。

ただし、児童生徒の発達段階を踏まえて系統的に内容の体系化が図られている保健学習においては心肺蘇生法実習においても中・高等学校を見通した系統的な指導計画を意図して「AEDの機能や設置場所等についての理解」「緊急時の対応の仕方」「胸骨圧迫の行い方」のみを理解できるようにする

【参考】さいたま市「体育活動時における事故対応テキスト～ASUKAモデル～（平成25年度）」

3.5 指導上の工夫

本単元では、学習内容（何を）をより明確にしたシンプルな授業づくりをする。そして、児童は課題設定にも主体的に取り組み、仲間（グループ）と協力しながら追究していくことができるよう指導していくことを基本とする。その際、児童の学び方（どのように学ぶか）として「知識を活用した学習活動」をアクティブ・ラーニングの手段として取り上げる。それは、習得した知識を活用する学習活動を通して「思考力・判断力等」を育成することをねらいとする。そこで、本単元では専門性を活かして養護教諭も参加し、ブレインストーミングや簡単な手当の実習を行うなど「知識を活用する学習活動」を展開する。具体的な授業づくり及び指導上の工夫は以下の視点に挙げられる。

視点1：学習課題を自分事として意欲的に課題解決に取り組むことができる手立て

- ・毎時間の学習課題を架空の人物（小学校5年）を主役の行動としてストーリー化させて身近な日常生活から考えさせる。
- ・自分でも「ヒヤリ」とした経験があるような地域の公園や共通する通学の道路、学校内に起こりうるけがを引き起こす事例を課題とするケーススタディーとして自分事として学習に取り組ませる。その際、校内でけがが起きやすい場所をグループで取材し、自分たちでけがの想定やその原因、どうしたら防げるかについて主体的に考える実習をする。

視点2：「知識を活用した学習活動」をもとに思考力・判断力等を高める手立て

- ・専門性の高い養護教諭との連携において、従来、専門的知識の解説を担う役割が多かった。本単元では、「深く学ばせる」、つまり思考を促すために発問や問い直しを含めてT1（担任）T2（養護教諭）、ティームティーチングにおける役割分担を適宜交換するなど意図的・計画的に指導を行う。
- ・課題解決のための予想を立てる場面ではブレインストーミングなどを取り入れて、自分の言葉で考える学びを進める。
- ・AEDに関する心肺蘇生法の実習では「胸骨圧迫」のみを取り上げるが、簡易トレーニングキット「あっぱくんライト」（アレクソン社製）を使用する。その際、ICT機器を活用し、胸骨圧迫について自分の行い方の課題、変化が分かるアプリ「見比べレッスン」（大修館書店）を使って「正しい胸骨圧迫」を体験しながら学ぶ。

視点3：正しい知識を身に付け仲間と協力して行動していこうとする意識を高める手立て

- ・けがの手当については個人的な活動になることが多いが、AEDを使用した心肺蘇生については今、自分に何ができるかを常に考え協働して取り組むことについて考えさせる。
- ・単元を通して学習のまとめの場面では、これまでの個人の振り返りではなく集団で学習課題、自分の学びについての振り返りを話し合う場面を設定する。

3.6 単元の評価計画（評価規準・評価方法）

評価規準（観点）		評価方法
・けがの防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。 （ア 健康・安全への関心・意欲・態度） ・けがの防止について課題の解決を目指して、知識を活用した学習活動などにより、実践的に考え、判断して表現している。 （イ 健康・安全についての思考・判断） ・けがの防止のために「身の回りの生活の危険」についての人の行動と環境がかかわりの大切さや簡単なけがの手当について理解している。 （ウ 健康・安全についての知識・理解）		・観察法 ・学習ノート（体育ノート） ・ワークシート
A（十分到達）	B（おおむね到達）	C（努力を要する）
・自分で見つけた課題をもとに自分事として意欲的に学習活動に取り組んでいる。（関心・意欲・態度） ・知識を活用した学習活動の場面を中心に自分の考えをもとに判断しながら工夫して学習している。（思考・判断） ・けがの防止には、周囲の危険に気付く、的確な判断の下に安全に行動すること、けがの手当は速やかに行う必要があることをよく理解しその考えをまとめている。（知識・理解）	・自分や教師から示唆された課題をもとに仲間とともに学習活動に取り組んでいる。（関心・意欲・態度） ・課題解決に向けて工夫して学習活動に取り組んでいる。（思考・判断） ・けがの防止について必要である気付き、判断、環境整備やけがの手当について概ね理解している。（知識・理解）	・自分で課題を持つことができず友達の意見を聞くのみで学習活動をしている。（関心・意欲・態度） ・課題解決場面において自分の考えをまとめることができずに学習活動をしている。（思考・判断） ・けがの防止について必要である気付き、判断、環境整備やけがの手当について理解していない。（知識・理解）

3.7 単元の指導計画（全5時間）

時間	主な学習活動	教師の指導・留意点・評価
第1時	○けがの発生 けがはどうして起こるのだろう - 事前の調査から身の回りで起こる事故やけがについて話し合う。 - 主役の物語を中心に事例についてその原因をブレインストーミングで話し合う。	- これまでのけがの経験を想起させアンケートの結果をもとに自分事として考えさせる - けがや事故は人の行動と環境が原因で起こること、また人の行動は心の状態や体の調子が影響することについて意欲的に考えることができる。 【関心意欲態度、思考判断：発表、ノート】
第2時	○身の回りの生活が原因となって起こるけがの防止 めざせ！けが0調査隊 - タブレット端末を使用して、附属大泉小の校内におけるけがが起こりそうな場所を見つけ、どのような行動、そして予想されるけがについて調査する。 - 原因や解決方法などをグループで話し合う。	- 校内や地域での隠れた危険について児童の身近な校内でのけがについて、自分ならどうするかという視点で考えさせる。 - 身の回りの生活が原因となって起こるけがについては周囲の危険への気付き、的確な判断を下に行動することについて正しく理解することができる。 【知識理解：発表ノート】
第3時	○交通事故によるけがの防止 かくれた危険を探し出そう - 交通事故について事例をもとに隠れた危険を考える。 ○犯罪被害の防止 - 犯罪が起こりやすい条件、犯罪が起こりやすい場所と原因について話し合う。	- 交通事故については都内で起きた具体的な事例をもとに隠れた危険を考えると、地域で行われている交通安全の取組などについても考えさせる。 - 犯罪被害については犯罪に合わないための行動について重点的に考えさせる。 - 交通事故及び犯罪被害の防止について危険に気付き、的確な判断の下に行動したり、環境を整えたりする取り組みが重要であることを理解する。 【知識理解：学習ノート、観察】
第4時	○けがの手当① 君にもできる～つなぐ命1～ - けがの手当の経験について話し合う。 - 自分でできる簡単なけがの手当について正しい方法を理解する。 - けがの簡単な手当の仕方について実習をする。 - けがの手当についてグループで考えをまとめて意見交換をする。 - 次時の実習に向けて、小学生による心肺蘇生のニュースや映像資料を視聴して学習課題を設定する。	- けが人が出た時には何をすべきなのかについてブレインストーミングを使って話し合い多くの意見を引き出していく。 - この時間は養護教諭をT1、担任をT2としてT2は意見を整理する側に立つ。 - 実際の実習では児童のけがの種類でも多く身近な擦り傷、切り傷、捻挫、打撲、鼻血、やけど、つき指などに触れる。 - けがの状況をできるだけ速やかに把握して処置するとともに近くの大人に知らせることが大切であることを理解することができる。 【関心意欲態度、知識理解：発表、ノート】
第5時 (本時)	○けがの手当② 君にもできる～つなぐ命2～ - 大きなけがの場合にはどのような行動をとればよいのか考える。 - 救急の時の通報の仕方を知る。 - AEDを使用する可能性のある大きなけがを想定して「胸骨圧迫」について実際に実習を行う。 - 社会の一員としてできることは何かについてグループで話し合い発表する。 - 学習のまとめをする。	- この時間は担任がT1として養護教諭がT2として進める。胸骨圧迫、AEDの役割については校内の配置場所を含めて養護教諭が専門的な視点から指導する。 - 胸骨圧迫について簡易トレーニングキットを使っての正しい理解を目指すために、ICT機器を使って児童に互いの処置の様子を観察させる。 - 小学生でも社会の一員として役割を担っていることに気付かせる。 - 自分ができる応急手当についてその原則を理解し、社会の一員として取り組むことを実習や話し合いを通して理解することができる。 【関心意欲態度、知識理解：発表、ノート】

4. 本時について

4.1 本時の目標

- 大きなけがの場合の対処法について、実習を通して、グループで協力し進んで取り組むことができるようにする。【関心・意欲・態度】
- 大きなけがの場合の対処法や、AED・心肺蘇生法（胸骨圧迫）について理解することができるようにする。【知識・理解】

4.2 評価規準

- ・けがの防止について関心を持ち、学習活動に意欲的に取り組もうとしている。

(ア 健康・安全への関心・意欲・態度)

- ・けがの防止のために大きなけがの場合の対処法として、AED、心肺蘇生について理解している。

(ウ 健康・安全についての知識・理解)

4.3 前時までの学習者

対象学級は、これまで「けがの防止」の学習について身近であることを認識しており、環境や行動そして、その人の心や体の調子が関わっていることを理解してきた。第1時では、自身の経験をもとにけがの種類やけがの場所、その時の行動を整理しながら、どうしたらけがや事故を防ぐことができるのか、もしけがをしてしまったらどのような対処をしたらよいのかについて関心を高めている。これまでの授業では、毎時間ごとにふりかえりの時間を大切にしてそのふりかえりを共有する時間も重視してきた。その中から次時への学習課題を授業者の意図及び指導計画と関連させながら取り組んできた。第2時では、グループで校内のけがについて調査活動を進め、児童の視点で多様なけがの場面、けがを想定し、その際のけがの対処法が自分事になっている。前時では、養護教諭がT1となり、けがの対処法として児童にとって身近な意識、実際に多いけがの対処法を実習として学習しており、様々な環境でも「今できることは何か」を判断することも大切であることを理解することができた。

4.4 本時の学習活動と教材

本時では、よりおおきなけがへの対処法として心肺蘇生について学習する。現行学習指導要領においては、すり傷、鼻出血、やけどや打撲など簡単なけがの手当を扱うことになっているが、児童の身近な生活で目にすることが多いAEDを使った心肺蘇生を発展的に扱う。発展的な扱いの中で、系統的な学習を意図した保健学習のあり方として小学生段階では、「AEDの機能や設置場所等についての理解」、「緊急時の対応の仕方」、「胸骨圧迫の行い方」を理解できるようにする。

教材としては簡易式的心肺蘇生トレーニングキット、「あっぱくんライト」（アレクソン社製）を使用し、一人ひとりが胸骨圧迫の実習をする。また、本時では客観的に正しい胸骨圧迫を評価できるようにアプリ「見比べレッスン」（大修館書店）を活用する。本アプリはこれまで跳び箱運動において首はねとびの映像を撮影し、客観的な動きの比較をしてどうしたらより良い動きになるか児童の思考を支えるツールとなってきた。本時でも、姿勢やタイミング、リズムなど胸骨圧迫の大切なポイントをより考えながら理解できる。授業後、実際に校内のAED設置場所に行き、設置状態を確認する。

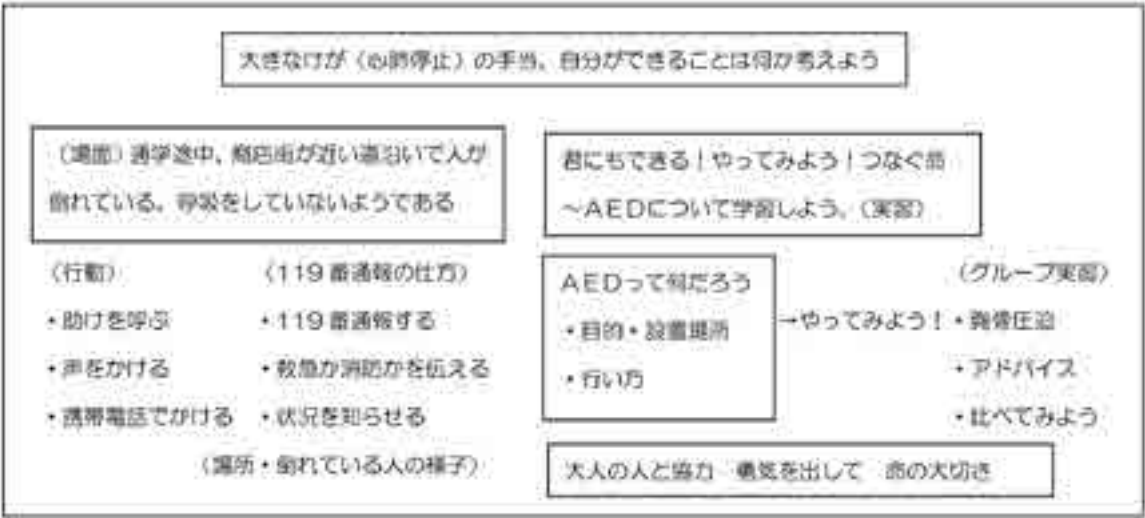
4.5 準備物

心肺蘇生トレーニングキット、AED、ワークシート、掲示資料、探検ボード（個人）

4.6 本時（5/5時）の学習指導過程

時	学習活動と内容	○指導上の留意点◆評価 T1（担任）T2（養護教諭）
導入 5分	1 前時に学習したけがの手当の学習感想を紹介する。 2 心臓突然死について知る。 ・心臓の動きが突然止まること ・1年間に日本では7万人 ・前時に紹介した小学生についても心臓の突然死であったこと	○自分でも簡単に取り組むことができた、やってよかったという感想を取り上げて本時の学習意欲を高められるようにする。 ○命にかかわるような大きなけがが発生した際に、どのような行動をとればよいのか、前時に児童とともに設定した学習課題に取り組ませる。（T1）
第2次 (2時間)	3 本時の学習課題を知る。	○N君の疑問から生まれた学習課題を提示する。
	「大きなけが」の場合、自分は今どうしたらよいだろう。 4 大きなけが（心肺停止）をした人を発見した時の行動について考える。（予想される児童の反応） ・助けを呼ぶ。 ・声をかける ・携帯電話で通報する。 5 どのような行動がよいのか、養護教諭の話聞く。 ・大きな声で助けを呼ぶ ・通報する（119番通報） ・AEDを持ってくる 6 AEDの目的や機能について知る 7 T1T2で行う、胸骨圧迫までの心肺蘇生を見る。 ・呼吸の確認 ・大声で人を呼ぶ ・胸骨圧迫 8 心肺蘇生トレーニングキットで学習する。（あっぱくんライト） 【1・2班の場合】 ① 1班の映像を撮る対象児童が先に撮影する。 ② 2班にタブレット端末を移動し、2班の対象児童の映像を撮る。 ↓ （全員が一通り終わったところで） ★全体で難しかったところ、ポイントを共有する。 ③もう一度1・2班で撮影する。見比べた後にワークシートに記入する。	○ワークシートに自分の考えを書き、ペアで話し合せて後、発表させる。 ○通学中の道路沿いで目の前で人（大人）が倒れた場合とする。 ○反応（意識）や普段どおりの呼吸の確認がよく分からない場合は、次の行動に進んでよいことを理解させる。（T2） ○119番通報しても、救急車が到着するまでには平均して8.6分、しかし、5分で救命率は50%になる事実を知らせる。（T2） ○救急車が来るまでの1分1秒が大切であることを理解させる。 ○AEDの目的や機能、校内設置場所について確認させる。（T1） ○T2が胸骨圧迫の示範をしてから取り組ませる。T1は救急車を呼ぶ。児童にAEDを手配する。 ○T1T2で各グループを回って具体的に指導する。 ○見比べレッスンを使い（タブレット端末4台）胸骨圧迫を確認しながら実習する。 全員を撮影することは難しいので、見比べる映像は代表児童1名とする。 ◆胸骨圧迫の練習に進んで取り組もうとしている。 【関・意・態】 ○T2養護教諭から、リズムや肘、姿勢などについて指導する。 ○アプリの操作方法で困っている場合は操作方法を指導する。
整理 10分	9 胸骨圧迫について振り返る。 ・全体で感想を発表する。 ・映像を撮った児童は動きの変化について発表する 10 本時の学習課題を振り返る。 ワークシートに記入する。 ・分かったこと ・考えたこと ・自分ができると考えたこと （予想される児童の反応） ・これからは、大きなけがの際に勇気を出して自分ができることをする。 ・自分だけでなく大人のひとと協力して命を救いたい。	○胸骨圧迫の取組について自分なりの感想、手ごたえを感じさせる。 ○実際に大震災などに大きなけがが発生したときには、周囲の状況をよく確認し、まず自分の安全を確保し、落ち着いて対処することが大切であることを理解させる。（T1） ○心肺蘇生の方法を知ること大切であるが、今自分ができること（人と呼ぶ、AEDを運ぶ、そして胸骨圧迫）について勇気を出してやってみることが大切であることを理解させる。小学生も事例を紹介する。（T1） ◆大きなけがの場合の手当としてAED・心肺蘇生について理解しているとともに、自分にできることをやってみることが大切であることを理解している。【知・理】

4.7 板書計画



4.8 教室内配置図（オープンスペース）【対象児童は1班男子 7班女子】

